



酒匂の清流

令和5年1月16日(月)発行

校長 津田 将美

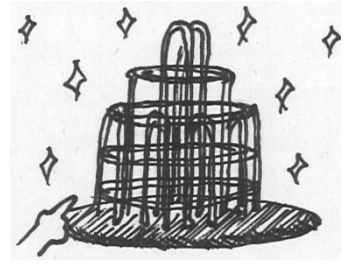
新しいグラウンドにて…

新学期が始まり、登校指導に出かけようと校門の前を通ると、2名の子がフェンス越しにグラウンドを眺めていました。私の姿を認めると、うれしそうに声をかけてくれました。

「校長先生、見て、早くやりたい。」

その子が指さした先には、真新しいジャングルジムがありました。

グラウンドのない、遊具のない生活が2年以上続きました。思えば子どもたちにも、職員にも不便な思いをさせてきました。それでも明るさや前向きさを失わずに、豊かな学校生活を創り出してくれたことに、感謝するのみです。



グラウンドも完成まで2か月を切り、その全貌が見渡せるようになってきました。少しずつ完成に近づくグラウンドを眺めながら、子どもたちも夢を膨らませているようです。ある意味、子どもたちにとってグラウンドは、新校舎以上に未来を象徴する魅力的なものなのかもしれません。

子どもたちや職員には苦勞と負担をかけていますが、私は河川敷での長昼休みの時間が好きです。広々とした河川敷グラウンドで、天気の良い日は富士山まできれいに見渡せます。行き帰りに交通整理に立っていると、子どもたちが本当にいい笑顔で声をかけてくれます。

「校長先生、いつもありがとうございます。」

「お仕事、がんばってください。」

そんな声かけに勇氣と元氣をもらう日々です。

交通整理が終わり、河川敷に行くと、そこには一面に広がる子どもたちの活動がありました。多くのはちきれんばかりの笑顔、先生たちもまた笑顔。子どもたちの楽しそうな様子をのんびりと上から見渡す時間。そういう時間が過ごせていることは、とても幸せなことなのだと感じます。

新しいグラウンドの完成により、また新しい歴史のページがめくられます。そして新校舎建築が完了し、新生松田小学校がスタートします。グラウンドがない、という状態を明るく前向きに乗り越えてきた子どもたちと職員だからこそ、また新しいグラウンドにもあたたかい陽だまりをたくさん作ってくれるはずです。

河川敷のほのぼのとするあたたかい思い出に浸りながら、新しいグラウンドで思いっきり活動する子どもたちの笑顔を思い浮かべて、完成の日を待ちたいと思います。



遊具は一番手前から「ジャングルジム」「登り棒」「雲梯」「高鉄棒」。グラウンドの反対側に低鉄棒があります。

体験的な学びから…

開成小学校に「はぎとり標本」というものが展示されています。これは15年ほど前、開成小学校の職員の依頼で開成町と地元の工務店が協力し瀬戸屋敷の敷地内の地面の中から、富士山の火山灰も含むその時代、時代の地層をはぎ取ったものです。

その「はぎとり標本」を開成小学校よりお借りして、当時開成小学校で4年生を指導していた大井みち先生に「はぎとり標本」を使った6年生の地層の授業をしていただいています。

私たちの下に広がっている地面の中の表情を実際に目にすることで、新しい発見があります。大井先生はそこから、子どもたちに地層のつくりやでき方等の知識、地層に関する興味・関心だけでなく、防災に対する意識まで根付かせてくださいました。

2時間×3クラス、計6時間の長丁場となりましたが、精力的に授業を展開していただいて、豊かな学びとなりました。



2学期の最終日には、6年生は学年体育で、バスケットボール大会を開きました。クラスごとにチームを作り、トーナメント形式で試合は行われていきました。準々決勝にもなると、学年全員が集まり、熱心に声援を送っていました。大会はサッカーワールドカップさながらに盛り上がり、2学期のいい締めくくりとなりました。

6年生の小学校生活は、あと3ヵ月弱です。今まで学校の見本となって、多くのことに前向きにがんばってくれた6年生の姿を、1年生から5年生もしっかりと心に焼き付けてほしいと思います。



本は心の友

今年の元旦は第一日曜日、つまり「家読(うちどく)の日」でした。終業式に子どもたちにこのことを伝え、是非家族で読書をしてほしいとお願いしました。残念ながら私は元旦に読書はできませんでしたが、インターネットで本を2冊買いました。始業式にはこの2冊と校長室前に3年近く置いてある1冊、合わせて3冊の紹介をしました。

「サンタクロースっているんでしょうか」

中村妙子：訳 偕成社版

三十数年前、私が初任校の松田小学校に勤務している時に、先輩の先生から紹介された本です。人の心にしみ通る流れるような文章に感動し、当時担任していた6年生の子どもたちに読み聞かせをしたことをふと、思い出しました。

とても素敵な本です。



「君たちは どう生きるか」

吉野源三郎：著

大学時代、哲学の授業で使われた教材です。感銘を受けて、何度も何度も読み直しました。そして、学級担任だったころ、道徳の教材でも活用した思い出深い本です。昨年も宮崎駿さんが映画を企画するというので、子どもたちに紹介をしました。それから1年あまり、公開日が具体的に決まったことを受けて、再度、詳しく紹介し直しました。校長室前に、文庫版と漫画版を置いて3年目となります。

漫画版がお勧めです。



「ことばの かたち」

お一なり由子：著

「もしも 話すことばが 目に見えたら どんなかたちを しているだろう」

という書き出しから始まるこの本は、「ことばのかたち」をやさしくあたたかい文章と色彩鮮やかな絵で表現しています。この本を読むと、言葉そのものよりも、言葉の向こう側にある思いが大切なんだと気づかされます。周りの人に対して、言葉を通してやさしい気持ちを伝えることができるように、言葉の向こう側にある大切なものを届けられるようになったら素敵だなあ…と思います。

